

ろくおん通信

発行日： 1993年 6月15日

No. 54号

発行者： 盲人情報文化センター録音製作係

「音声訳」を考える (第5回)

正しく読むということ その2

～ 複数の読みのあるもの～

録音製作係 清水賢造

前回の正誤表で、「折紙」を、「オリカミ」は間違いで正しくは「オリガミ」と掲載しましたが、「オリカミも良いのでは？」との指摘を受けました。早速調べて見ると、広辞苑には、「オリカミは室町時代の読み」とあり、「日本国語大辞典」や「大辞林」には、「古くはオリカミ」とありました。「オリカミ」の読み方は、現在では一般的ではなくなっているようです。言葉は時代とともに様々に変化しています。以前は間違いであった読みも、現在では、慣用読みの方が一般的になり、かえって「正しい読み」が通じなくなるといったケースもでてきています。

このように同じ言葉でも複数の読み方があるものはたくさんあります。どちらの読み方を採用するかは音訳者がその都度、選択していくわけですが、今回は、複数の読み方があるものの処理について考えて見ました。

1. 読み方が辞書になくどちらかを選ぶ場合は、音で聴いてより分かりよい方を

《例》 遠霞 エンカ？、トオガスミ？

上記の読みは辞書にはありません。文章の内容にもよりますが、どちらでも良い場合は後者の読みの方が良くわかります。

2. どちらも辞書にはあるが、片方は一般にはあまり引かない「日本国語大辞典」や「大漢和」などしか載っていないような場合は、一般的な辞書（広辞苑や大辞林など）に載っている方を採用する。

《例》 両国 リョウコク、リョウゴク 出国 シュッコク、シュツゴク

上記の例では、両国（リョウコク）を「リョウゴク」、出国（シュッコク）を「シュツゴク」と読まれる方があります。この場合、濁る読み方は「日本国語大辞典」には載っていますが、

広辞苑や大辞林には、「リョウコク」や「シュッコク」の読みしか載っていません。単に辞書にあるからというだけでなく、「大漢和」や「日本国語大辞典」などにしか載っていないような読み方はさけるべきでしょう。上記の例では濁ると「領国」や「出獄」などの言葉もありますので、混乱するかもしれません。

3. 複数の読み方があるが、片方の読みが他の言葉にも取られるような時

《例》 前半 ゼンハン ゼンパン

「前半」(ゼンハン)は、「ゼンパン」とも読めますが、「ゼンパン」と読むと、文章によっては「全般」の意味に取られる恐れもあります。

- ・彼らのチームは、ゼンパン(前半?全般?)に良く頑張った。

4. どちらの読み方もあるが意味が違うものは、意味の通る方を読む

《例》 素面 シラフ、スメン

- ・防具を付けず素面で剣道の試合をする
- ・酔っていても素面のふりをする

5. 複数の読み方があっても専門分野の本に出てくる読み方はその分野の辞書の読みをする。

《例》 日長 ヒナガ、ニッチョウ

- ・春の日長(日永)
- ・日長効果(ニッチョウコウカ) <科学大辞典>

6. どちらも辞書には載っているが一方は古語(辞書によっては老人語として掲載しているものもある)となっている方は避ける。

《例》 折紙 オリガミ、オリカミ

7. ルビが付いている場合、音訳者の読みたい方と違うルビであっても、ルビを優先する。

《例》 甲斐性 なし

ルビに「カイショウ」とあれば「カイショウナシ」、もちろんルビがなければ「カイショナシ」とよんでも良い。

つづく

正誤表から・・・その29

語句	誤読	正しい読み	語句	誤読	正しい読み
驕慢	コウマン	キョウマン	坩堝	カタツムリ	ルツボ
醜行	シュギョウ	シュウコウ	所以	ユウトコロ	ユエン
跡切れて	アトぎれて	トギれて	実生	ワセ	ミショウ
政所	セイショ	マンドコロ	嗅覚	シュウカク	キュウカク

二通りの読み方があって各々意味が異なるもの・・・その16

力作	リキヤ リョクヤ	力をこめて製作した作品 つとめ働くこと、労働	家庭	カアイ ヤニ	家族が生活する所 人家のある所、人里
左右	サウ モコ	(許処の意) 吐、カワラ、側近	地下	カ ジゲ	土着の人
理性	リショウ リセイ	(仏) 万有不変の本性 概念的思考の能力	立礼	リツレイ リョウレイ	起立して敬礼すること 茶の湯で椅子と卓を用いて たてる点前

Q: 音訳で苦勞する調査のノウハウなどを勉強したいのですが、そんな資料はありませんか。

A: 元国会図書館の職員の北川和彦氏が「ボランティア活動の為に」というシリーズで、「音訳・点訳の読みの調査テクニック」という資料を発行されています。これらを購入されてはいかがでしょうか。

現在、第1集「基本編」、第2集「人名・地名編」、第4集「文献参照(特に欧文)編」(B5版で、いずれも30ページ～35ページ程度)が発行されており、近く、第3集「略語・記号・単位編」(B585ページ程度)が予定され、第5集では「医学編(西洋医学)」も予定されているようです。定価は1集・2集・4集それぞれ350円。送料は1部175円 2-3部250円 12冊以上無料

*お申し込みは、〒262 千葉市花見川区朝日ヶ丘3273

にれの木台団地 2-23-301

北川 和彦

TEL 043-272-3276

Q. 小説などを何人かで手分けして読んだりするのはよくないのでしょうか。

A. 小説で大部のものを一人で読むのは時間がかかり何人かで分担して読むと早く仕上がるという点では利点はありますが、小説などは利用者の立場から言えば、できれば同じ人が最後まで音訳することが良いように思います。ただ、リクエストなどで一刻も早く読みたいということで、本人の了解のもとに読むものであれば別です。しかし、図書館の蔵書や他の人にも利用を考えているのであれば、できるだけ避けた方が無難でしょう。小説などは会話など音声訳者の表現に差がでえます。人が変わる度に登場人物のイメージが変わるようなことにもなるからです。リクエストなどでどうしても複数で読む場合、言葉の打ち合わせなども事前にしておく必要があるでしょう。もちろん、小説以外の作品では複数で製作するケースは結構多いと思いますが、その場合、一度、各人が目を通し、読む前に全体の処理の統一を最初に決めて置くことが大切です。

編集ボランティア募集中

盲人情報文化センターでは、録音図書を編集しています。

今年度は、編集ボランティアを若干名、下記の内容で募集します。週に1回、来館が可能な人で、テープの編集に興味のある方がおられましたら、録音製作係までご連絡ください。

- | | |
|------|--|
| 養成者 | 定員若干名 (土曜日来館可能者) |
| 条件 | 1. 土曜日、週1回(10:00~15:00)程度の来館が可能な方
2. 機械操作が嫌いでない方
3. 簡単な漢字の読みの試験(校正も兼ねますので) |
| 養成期間 | 本人の来館可能な日に合わせて、マンツウマンで行います。
期間は2ヶ月程度(個人差あり) |

音訳グループリーダー連絡会

場所： 盲人情報文化センター6階

日時： 1993年7月23日(金)

13:30~15:30

内容： 1. グループリーダー中心に処理の研修。

()の処理の研究(第3回)

2. グループ交流・意見交換

*グループリーダーを中心にした勉強会です。お気軽にご参加ください。

*参加グループは、現在12グループ15.6人です。次回は()の例文の研究

リクエスト図書一覧

『無句徳第56.57号』/承福寺著 <仏教>

『証言「朝鮮人従軍慰安婦」』第1集/日朝協会埼玉県連合会編 <歴史>

『証言「朝鮮人従軍慰安婦」』第2集/日朝協会埼玉県連合会編 <歴史>

『屍蘭 新宿鮫』/大沢在昌著 <推理小説>

『道化師は笑わない』/山口正介著 <小説>